

第6回全日本バスケットボール選手権大会 兼 全日本クラブスーパーシニアバスケットボール交歓大会



日時：2013年11月23日（土）、24日（日）

場所：長崎県長崎市

会場：長崎県立総合体育館（アリーナかぶとがに）

三菱重工総合体育館

帯同：福岡県選抜チーム

帯同者：阿部 康兵（リハビリテーション部）

松本 賢士（リハビリテーション部）

【大会目的】

地域で活動する競技志向の高いシニア世代のクラブバスケットボールプレイヤーが全国各地から集い、フェア精神に基づき、お互いに競い合いながら交歓・交流を深め、自らの健康管理とバスケットボール競技に対する理解と認識を高め、併せて地域の生涯スポーツの一環として、バスケットボール競技の普及・振興・発展を図ること。

【参加資格】

1) シニアは平成 25 年 4 月 1 日現在で、満 39 歳以上の者。

スーパーシニアは平成 25 年 4 月 1 日現在で、満 49 歳以上の者。

2) 平成 25 年（公財）日本バスケットボール協会に競技者登録を完了している選手で、日本クラブバスケットボール連盟に登録を完了したクラブチームに所属している選手により構成されたチームであること。なお、所属チームが登録を完了している都道府県以外からの出場は出来ない。

3) ブロック連盟又は開催県連盟の予選を経るか、推薦により代表権を得たチームであること。

4) チーム単独又は補強、選抜でも良い。

5) チームには、公認コーチを有すること。

【参加人員】

監督 1 名、コーチ 1 名、アシスタントコーチ 1 名、マネージャー 1 名、選手 16 名、合計 20 名以内とする。

【競技方法】

トーナメント（3 位決定戦は行わない）

【競技規則】

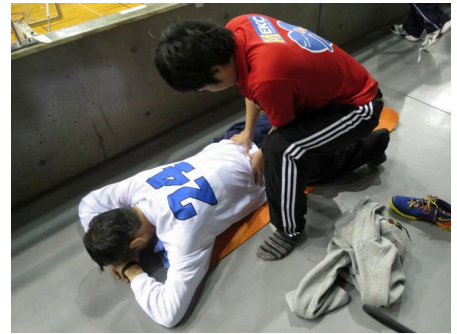
現行の公益財団法人日本バスケットボール協会競技規則

【1 日目】

広川町を 6 時 30 分に出発し、9 時頃に長崎県立総合体育館に到着。そこで有光さんと合流し、早速試合前のコンディショニングを行いました。有光さんからはハムストリングスと腰を中心に行ってほしいとのことだったのでそこを中心に行いました。



1 日目は 2 試合行われました。初戦は北海道のチームとの試合でした。このチームとは今まで 1 勝 1 敗で因縁の対決だと話していました。第 1 クォーターは 9 対 13、第 2 クォーターは 19 対 21 と不利な状態でしたが、第 3 クォーター、第 4 クォーターで見事逆転し勝利をつかむことが出来ました。この試合が久しぶりの実践だった有光さんは思い通りの動きが出来ず、チームは勝ったけどとても悔しそうでした。



初戦の第 1 クォーター開始 5 分で選手が足関節を負傷してしまうアクシデントが起きました。すぐに駆けつけ、アイシング、固定等の処置を行い、近医へ送りました。その後、その選手はギプス固定、松葉杖歩行となり、再びチームへ合流しました。



2 戦目は秋田県のチームとの試合でした。1 試合目とは違い各クォーターとも点数が上回れなく気がつくとも 59 対 38 と快勝でした。有光さんも本来の動きを取り戻し、大活躍でした。

夜からは懇親会に参加させていただきました。試合に参加しているすべての選手が集まり、お酒を飲みながら昔の話や明日の試合への心意気など熱く語ってくださいました。ただ、試合前にこんなにお酒を飲んで明日動けるのか…と心配にもなりました。



【2 日目】

午前 9 時より準決勝が行われました。福岡は神奈川代表「ZERO」との試合です。第 1、2 クォーターは点を取り合うシーソーゲームでしたが、後半に突き放されてしまいました。試合は 37-48 で敗戦しました。

一昨年は優勝、去年は準優勝、そして今年は優勝を奪還する意気込みで臨みましたが、惜しくも 3 位という結果でした。やはり、他県はメンバー変更、補強等行い、確実にレベルアップしているとのことでした。また来年、是非リベンジしていただけたらと思います。





表彰式後はコンディショニングを行いました。試合中に足がつる方がおられたこと、コンディショニングをしている中でも、特に体が硬い方が多かったため、日頃からストレッチなどケアを十分に行うよう指導しました。

感想

阿部 PT

まず、チームの動きに驚きました。本当に50歳以上とは思えない俊敏さ、体力でした。その運動量からサポートの立場の人間がとても大切な役割を担っていると感じました。みなさんは試合前から何かしらの持病があります。試合前後と筋力のほりが強く、プレー中に足がつる人もおられましたし、中には膝関節が腫れている方もおられました。

そのような状態を酷使してまでも、バスケットボールをしたいという想いの大きさに何とか力になれるよう、日々取り組んでいき、生涯スポーツの一助になればと思います。

また今回、今までで初めて、試合中に負傷した方に対応しました。プレー続行が可能なのか、できないのであればその方をどうするのか、とっさの判断、行動が必要になりました。結局、プレー不可の判断をし、近医へ送りました。搬送先のDr.に受傷機転や現在の状態等説明させていただく機会もあり、貴重な経験となりました。ありがとうございました。

松本 PT

今回初めて帯同をさせて頂き、普段の臨床では経験することが出来ました。シニアの方がハードに動いている姿を見て、少し動いただけで息があがっている自分が恥ずかしく思いました。試合後はコンディショニングを行い、自分も実際にさせていただきました。実際に選手を触ってみて、普段と試合後での筋肉の違いを感じる事が出来ました。

今回の帯同で感じたことを忘れず今後にかاشていきたいです。貴重な経験をありがとうございました。



全日本スーパーシニアバスケットボール大会に帯同させていただきありがとうございます。

来年もますますのご活躍を期待しております。

このような機会をいただきありがとうございました。